

日本学術会議 会長 梶田隆章 先生

## 「持続可能な発展のための国際基礎科学年 2022」(IYBSSD2022) 連絡会議設置提案

2019年の11月にユネスコによって2022年をThe International Year of Basic Science for Sustainable Development(IYBSSD2022)とすると決議されました。IYBSSD2022はSDGsの目標とする持続可能な発展に、好奇心に基づく基礎科学の発展が必須であることをより多くの人に認識してもらうことを目的としています。

ユネスコはこれまでも、科学に関する国際年を制定し、学術会議でも、関係する国際学術連盟対応分科会が対応してきました。2019年の国際周期表年は、化学委員会物理学委員会合同IYPT対応検討分科会、2015年の国際光年は総合工学委員会ICO分科会、2014年の世界結晶年はIUCr分科会、結晶学分科会が推進活動の一部を担ってきました。またこれらの推進活動については、対応する学会や外部の実行委員会も重要な役割を担っていました。

IYBSSD2022についても、学術会議が中心となって推進するべきものですが、この国際年では対象が「基礎科学」と広くとられています。SDGsの基盤となっている基礎科学は一つの分野だけに閉じているわけではないので、これは当然のことと言えます。関係する国際学術連盟対応分科会も学術会議の各部に分かれています。

従いまして、IYBSSD2022に関しては、既存の分科会や学会対応に加えて、新たに設置された委員会等連絡会議の枠組みを用いて、情報交換を行いたいと考えます。

「持続可能な発展のための国際基礎科学年 2022」(IYBSSD2022) 連絡会議Iは、IYBSSD2022に関して、以下を審議事項とすることを提案します。

### ◎連絡会議における当面の審議事項(案)

- (1)IYBSSD2022に関連する関連委員会・分科会等の活動の状況把握と交流
- (2)国際的なIYBSSD2022活動への参加手続きや情報交換
- (3)学術フォーラムや公開シンポジウムの企画や連携
- (4)学協会等へのIYBSSDについての啓発、学協会活動への協力・学協会間の意見交換の促進方策

◎連絡会議の運営体制 概ね、関連する委員会・分科会からメンバーを1~2名程度選出して行う。また、次世代育成等の観点から理科4教科と数学に対応する委員を含む運営グループを連絡会議内部に作る。また、学術会議として、海外との連携や情報発信がスムーズに行えるように、幹事会から若干名メンバーを加える。今後、参加を希望する委員会、分科会が新たにできた場合は、その申し出によって適宜委員を追加する

◎当初、連絡会に参加する委員については、別表に記載します。幹事会からは梶田会長と第一部幹事の日比谷潤子先生、第二部部長の武田先生に入っただけのことを希望します。

令和3年7月27日

関連委員会・分科会委員長

第一部

史学委員会

IUHPST 分科会 木本忠昭

第二部

基礎生物学委員会 統合生物学委員会合同

IUBS 分科会 西田治文

第三部

数理科学委員会 小澤徹

IMU 分科会 小藺英雄

\*物理学委員会 野尻美保子 (とりまとめ)

IAU 分科会 渡部潤一

IUPAP 分科会 藤澤彰英

地球惑星科学委員会 田近英一 (委員会内とりまとめ)

国際連携分科会(IMA 小委員会、SCOSTEP-STPP 小委員会)

三枝信子

IUGG 分科会 東久美子

IGU 分科会 鈴木康弘

SCOR 分科会 原田尚美

化学委員会

IUPAC 分科会 所裕子

IUCr 分科会 高田昌樹

結晶学分科会 菅原洋子

<<別表>> 連絡会参加委員

第一部

史学委員会 IUHPST 分科会 溝口元 連携会員

第二部

基礎生物学委員会 統合生物学委員会合同

IUBS 分科会 西田治文 連携会員 (委員長)

酒井章子 連携会員

第三部

数理科学委員会 調整中

\*物理学委員会(IUPAP 分科会) 野尻美保子 会員 (委員長) \*とりまとめ

IAU 分科会 渡部潤一 連携会員 (委員長)

地球惑星科学委員会

IUGG 分科会 佐竹健治 会員 (地球惑星科学委員会・副委員長)

SCOR 分科会 西弘嗣 会員

IGU 分科会 氷見山幸夫 連携会員

国際連携分科会

IMA 小委員会 大谷栄治 連携会員

SCOSTEP-STPP 小委員会 塩川和夫 特任連携会員 (委員長)

化学委員会

IUPAC 分科会 所千晴 会員 (幹事)

IUCr 分科会 井上豪 連携会員 (副委員長)

結晶学分科会 上村みどり 連携会員 (幹事)